

仙台市防災会議
第1回原子力防災部会・第1回作業部会 合同会議
議事要旨

- 1 日 時 : 平成24年10月30日(火) 13:00~14:30
- 2 場 所 : 市役所本庁舎第一委員会室
- 3 出席者 : 当資料末の出席者名簿参照
- 4 資 料 : 資料1 仙台市防災会議 原子力防災部会運営要領(案)
資料2 討議資料
参考資料
- 5 議事要旨 : (敬称省略)

開会、委嘱状・任命状の交付、市長挨拶の後に次の通り討議を行った。

(1) 会議の公開について

藤本部会長から仙台市の規定に基づき、部会の公開及び議事録の公開について発議があり、全会一致で了承された。

(2) 原子力防災部会運営要領について

事務局が資料1 原子力防災部会運営要領(案)を説明した後に、全会一致で了承された。これにより、同要領は、平成24年10月30日から施行となった。また、部会長からの指名により、作業部会長に増田委員が就任し、挨拶を行った。

(3) 計画の基本的考え方について

事務局が資料2 討議資料及び参考資料を説明した後に討議を行い、資料2に示された進め方について全会一致で了承された。

各委員からの発言の要旨は次の通りである。

石井委員)

福島原発から50km程度に位置する福島市や郡山市の事故直後の空間放射線量を見ると、数 μ シーベルトというところもあるので、仙台市はその対応についてしっかりと検討することが必要である。その際、福島の実際の状況に関する詳細なデータも踏まえて計画を検討することが重要である。

福島では除染が一番問題になっている。早く除染に入っていれば、除染がうまくいったと思われるケースがある。市民の生活を守るため、事故が起こった場合に、地震のパニックが終わったら早く除染を実施できるような体制を構築することが重要である。

石川委員)

国や県と一緒に指針や計画を検討している中で、仙台市が並行して計画を作っていくということなので、フレキシブルで、柔軟性のある方向性をもって策定することが重要である。

加藤委員)

福島原発の事故以降、給食の放射能汚染が気になって弁当を持たせる家庭が何件が見られる状況である。児童の保護者の視点から意見を言いたいと考えている。

菅野委員)

放送局の立場として、できる限り正確な情報を迅速にわかりやすく提供することを基本にして臨みたいと考えている。

高橋剛委員)

仙台市が福島原発事故に対する様々な対応を実施していることについて、宮城県としても心強く思っている。

一方、原子力規制委員会が9月によりやく立ち上がり、地域防災計画の基となる原子力災害対策指針も10月中に制定される予定となっているなど、国の動きが遅れているので、県としても早くきっちりとしたかたちで指針を出してほしいと願っているところである。

そのような中で、仙台市が他の政令市の動きも見ながら、英断をもって計画づくりに取り組むということである。状況によっては今までに前例の無い女川原発周辺市町の広域避難計画を盛り込む必要が生じると考えており、その場合には避難者の受け入れ先をどうするかが大きな問題になる。仙台市長が他市町村からの避難者の受入れも課題の一つであると仰っていたことにとっても感銘を受けている。委員として仙台市の独自色を出せるように連携していきたいし、仙台市の力に大いに期待している。

千田委員)

先ほどの県の考えと同じである。女川原発周辺市町の避難者は大部分が仙台市に来るだろうと思われるので、県と一層連携して計画策定を進めることが重要である。

また、私の専門分野に関連して、福島原発の事故ではサーベイメーター等で検査して欲しいという声が多数寄せられてどこで受け入れてもらうか対応に苦慮した。この事に関しても県と連携して計画策定していくことが重要である。

中畑委員)

原子力事業者の立場から発言させていただくと、本計画における当社の役割は原発事故時における迅速な情報提供にあると考えている。現行の枠組みでは、事故時に国、県、市町村に連絡することになっている。計画策定にあたっては仙台市に必要な情報を提供することについて協力していきたい。現在、原子力規制委員会において原子力事業者の対応についても検討中であり、そのような動きを注視しつつ、県とも十分に連携して計画の策定作業を進めてもらいたい。

金澤委員)

現在、原子力事業者として、県や市町の原子力防災計画と整合を図りつつ、防災業務計画の見直しを行っているところである。仙台市の計画も国の指針や県等の計画との整合を図りながら策定されることを希望する。

水田委員)

社会心理学を専門とし、防災意識や避難行動の研究、そして現在は避難所や仮設住宅のコミュニティの研究をしている。仙台市はこのようなかたちで早期から計画を立てているのですばらしいと思う。現在、避難所の働きについて研究をとりまとめる予定である。避難者の受入れ体制の検討に役立つと考えられるので、その成果も提供するなどして協力していきたい。

松本委員)

今回の発災以降、民生委員児童委員として住民の安否確認などに取り組んできた。このたびの計画策定では原子力防災ということで、今も仙台に避難してきている人がたくさんいて、その方々に状況を伺うなど、民生委員が対応している。原発事故が発生した場合の対応は、若い子供たちへの影響を考えると避難も念頭にしなければならないと思う。

宗片委員)

男女協働参画の視点で震災前から防災に取り組んできている。復興計画の策定にも参画したが、福島原発の事故への対応は、復興計画にも盛り込まれている。

市民、とりわけ子育て層が必要以上に不安にならないためには、モニタリングの結果や原発そのものの情報などについて、市民が正しく、わかりやすい情報を得ることができるようにすることが重要である。市民の不安感によって、農林業や観光産業に、風評被害が生じている。福島からの避難者も不安を抱えて生活しているのを見ると、他人事ではない。仙台市が独自に取り組むことが重要である。

和田委員)

気象を専門とする立場で議論に参加させていただいている。原発の事故が起こった場合には、オフサイトセンターの住民安全班に行くという役割を担当している。実際に3.11、福島原発事故の際には福島のオフサイトセンターに行った。そのような経験も踏まえて議論に参加したい。

高橋宮人委員)

食品の放射性物質検査を担当している。今後もモニタリング結果をわかりやすく提供していきたい。

今回の計画検討の前提として、女川原発が稼動した場合と稼動しない場合で事故の影響が違ふとすれば、危機管理の視点からはまずは最悪の状況になると思われる稼動している場合の事故状況を想定して検討することと、稼動していない場合の事故状況への対応についても、国の指針との整合もはかりながら検討していくことが重要である。

大友委員)

震災廃棄物の焼却施設などの空間放射線量等のモニタリング及び放射性物質以外の一般環境における環境汚染、土壌汚染等のモニタリングを担当している。この部会は専門の立場の方々からお話を聞くととても良い機会であると思っている。環境基本法と放射能の関係

がどのように変更されるかを見きわめつつ、この部会での議論に参画していきたい。

青沼委員)

昨年の発災以降、放射性物質モニタリングの精度を高めなければならないということで、学校プール水や学校給食の食材のモニタリングを実施してきている。今後、女川原発の事故を想定したときに、モニタリング精度を高めるにはどのような体制をつくれば良いかが大きな課題になると認識している。

佐藤委員)

仙台市に原子力防災計画の策定義務が無い中で、福島原発の事故に様々対応しなければならなくなったということで、その対応の総括的な対応をする立場である。女川原発のみならず福島原発に過酷事故が生じたときに対応できるように、皆様の助言をいただきながら、しっかりと計画づくりを進めてまいりたい。本日の会議は第1回ということで情報共有のための勉強会のような内容となっているが、次回作業部会では各論に入りたいと考えている。

増田作業部会長)

福島原発の事故で、現地のいくつかの市町が原子力災害対策編を持っていたにも関わらず、それが機能しなかった原因、理由は何かということ为国の検証結果も見ながら確認する必要がある。

また、国、県の指針や計画に対して、仙台市はどこまで独自に入れ込むのかが気になる。放射能廃棄物の処分場の整備や仮の町構想は必要か不必要でないかなど、福島状況を見ると事前に考えておかなければならないテーマがいくつかあると思うので作業部会でつめていきたい。

藤本部会長)

本日は、情報の問題、避難所の問題、被ばく対策の問題、食物の安全面の問題、除染の問題などについて、今後の具体的な論点、テーマ、方向性をいただいたと考えている。今後は本日のご意見を踏まえて、日程的な問題はありますが、事務局で精力的に検討を進めてまいりたい。

(5) その他

事務局から、次回、第2回作業部会が次の通り開催されることについて案内があった。

第2回作業部会

- 日時 : 平成24年11月30日(金) 10:00~12:00
- 場所 : 市役所内会議室(本庁舎 2階 第一委員会室)
- 議題 : 計画の基本方針について

以上

仙台市防災会議
 第1回原子力防災部会・第1回作業部会 合同会議
 出席者名簿

原子力防災部会
 (順不同)

氏名	所属・役職	分野	出席者
石井 慶造	東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻 教授	放射性物質の環境影響	○
石川 一郎	(公財)原子力安全技術センター防災技術部 部長	原子力災害時の緊急対応	○
加藤 真由美	仙台市 PTA 協議会副会長(南材木町小学校 PTA 会長)	児童・生徒の保護者	○
菅 俊秀 (代理) 菅野 利美	日本放送協会仙台放送局長 日本放送協会仙台放送局放送部長	防災会議委員	代理
曾根 秀昭	東北大学サイバーサイエンスセンターネットワーク研究部 教授	災害時の情報収集・伝達	欠席
高橋 剛	宮城県環境生活部原子力安全対策課長	宮城県原子力対策担当	○
千田 浩一	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授	放射線管理・放射線医療	○
中畑 直人	東北電力株式会社仙台営業所長	防災会議委員	○
増田 聡	東北大学大学院経済学研究科 教授	地域計画	○
松本 淑子	仙台市民生委員児童委員協議会 理事	防災会議委員	○
水田 恵三	尚絅学院大学総合人間科学研究科長 教授	避難計画	○
宗片 恵美子	NPO 法人イコールネット仙台 代表理事	防災会議委員	○
和田 幸一郎	仙台管区气象台総務部 危機管理調整官	気象	○
藤本 章	仙台市副市長(部会長)	防災会議委員	○
佐藤 孝好	仙台市危機管理監	防災会議委員	○
高橋 宮人	仙台市健康福祉局長	防災会議委員	○
大友 望	仙台市環境局長	防災会議委員	○
青沼 一民	仙台市教育長	防災会議委員	○

作業部会

(順不同)

氏名	所属・役職	分野	出席者
石井 慶造	東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻 教授	放射性物質の環境影響	○
石川 一郎	(公財)原子力安全技術センター防災技術部 部長	原子力災害時の緊急対応	○
加藤 真由美	仙台市 PTA 協議会 副会長(南材木町小学校 PTA 会長)	児童・生徒の保護者	○
金澤 定男	東北電力株式会社火力原子力本部原子力部長	電力事業者	○
菅野 利美	日本放送協会仙台放送局放送部長	放送局	○
曾根 秀昭	東北大学サイバーサイエンスセンターネットワーク研究部 教授	災害時の情報収集・伝達	欠席
高橋 剛	宮城県環境生活部原子力安全対策課長	宮城県原子力対策担当	○
千田 浩一	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授	放射線管理・放射線医療	○
増田 聡	東北大学大学院経済学研究科 教授(作業部会長)	地域計画	○
松本 淑子	仙台市民生委員児童委員協議会 理事	防災会議委員	○
水田 恵三	尚絅学院大学総合人間科学研究科長 教授	避難計画	○
宗片 恵美子	NPO 法人イコールネット仙台 代表理事	防災会議委員	○
和田 幸一郎	仙台管区气象台総務部 危機管理調整官	気象	○